《報告》

山口県西部におけるイチョウヤドリカニムシの分布と生態

松田真紀子

豊田ホタルの里ミュージアム・サポーター会員、〒 750-0441 山口県下関市豊田町大字中村 50-3

はじめに

イチョウヤドリカニムシ Allochemes gingoanus (Morikawa, 1953) (図1) は、本州や九州に分布し、イチョウ Ginkgo biloba L. の樹皮の下や落ち場の下、メススジゲンゴロウ Acilius japonicus Brinck, 1939 の体から見つかっている (Morikawa, 1960). また、萩原ほか (2019) では生息環境として海岸の石の下と記載している。川野・佐藤 (2015) では5科13種4亜種を山口県から報告しているが、本種については記載されておらず、山口県からは報告されていない。

そこで、本報告では山口県ではじめて確認した本種の県西部における分布と生息環境の報告、本種に関する生態的な知見は皆無であることから飼育観察を行って若干の生態的な知見の蓄積を試みた。



図1. イチョウヤドリカニムシ(山口県下関市豊北町角島産)

調査地と調査方法

- (1) 分布調査:分布調査は本種を対象として行ったものではなく、海浜性の節足動物全般を調査する中で見つかった. 調査は海浜の打ち上げられたゴミや海藻の下、岩礁の岩の隙間や海浜植物の根際など、多様な環境を調査した. 本種を確認した際は、一部を飼育用に持ち帰り、他は70%エタノールが入ったバイアル瓶に入れて固定して持ち帰った. 持ち帰った標本は双眼実体顕微鏡下で確認した. 同定は体形や体の毛の配置、触肢の感覚毛の位置などを Morikawa (1960) を参考に行った.
- (2) 生態観察: 下関市豊北町角島で2017年6月27日に採集した幼虫1個体と同年9月8日に雌1個体を採集して、飼育観察を行った. サンプル瓶 (直径2 cm×5 cm) の底にティッシュペーパーを巻いた状態で敷いて、それに水を染み込ませて湿度を保った状態で飼育し、適宜トビムシを餌として与えた.

結果および考察

(1)分布・生息環境

調査の結果,山口県西部の海岸5ヶ所で生息を確認することができた. 採集記録は採集地, 採集日(yyyy-



図2. イチョウヤドリカニムシの生息環境(山口県下関市豊北町角島)

mm-dd), 採集個体数, 生息環境の順で以下に示す.

採集記録:長門市仙崎紫津浦,2020-III-21,1ex.潮上帯の海浜植生帯の石の裏;下関市豊北町角島,2017-VI-27,1ex.,潮上帯の海浜植生帯の流木の下;2017-XI-13,5exs.,潮上帯の海浜植生帯の石の下;2018-VIII-31,2exs.,潮上帯の海浜植生帯の石の下;で関市吉見古宿町古宿海岸,2019-VII-9,1ex.,海浜植生帯に打ち上げられたアマモの下;豊北町栗野,2020-V-14,1ex.,砂利浜の海岸林縁の石の下;豊浦町小串うしろ浜,2020-V-24,1ex.,海浜植生帯の石の下.

生息環境:海浜植生帯や海岸林縁にある石や流 木の裏で(図2),いずれも海側は砂利浜であるか,



図3. クモの巣に捕獲されたイチョウヤドリカニムシ

転石が多い砂浜だった。生息地での個体数は少なく、1 か所で数個体しか得られなかった。同所的にイソカニムシ *Garypus japonicus* Beier, 1952 が見つかることもあった。生息地ではクモに捕獲されている個体が確認された(図 3)。

(2) 生態観察

2017年6月27日に持ち帰り、飼育していた幼虫1個体が同年7月8日に巣を作った(図4).カニムシ類の多くが鋏角先端から糸を出して巣や抱卵床を作ることが知られるが(例えば、佐藤、1978)、本種も同様に糸で巣を作ることが確認できた。巣は土の窪みを利用して体が入る大きさの巣を作っていたが、巣の中の幼虫が死んでいたため、この巣が脱皮のために作られたものなのか、ただの巣として使われるものなのかについてはわからなかった。



2017年9月8日に雌成虫1個体を下関市豊北町 **図4**. イチョウヤドリカニムシの巣 角島で採集し、飼育観察を開始した、10月24日に抱卵しているのを確認し(図 5-1, 2, 3)、抱卵した雌成虫



図5. 抱卵したイチョウヤドリカニムシ雌成虫と孵化した幼虫 1・2. 抱卵した雌成虫; 3. 抱卵した状態でトビムシを捕食する雌成虫; 4. 孵化した幼虫とトビムシを捕食する雌成虫; 5. 孵化直後の幼虫; 6. 雌成虫と幼虫の腹面.

は腹側に卵塊を付着させた状態で餌であるトビムシを活発に捕食した(図 5-3). 11 月 25 日に幼虫 7 個体が孵化した(図 5-4,5,6). 幼虫は雌成虫の近くで幼虫同士集まってじっとしていることが多かったが、時折雌成虫や他の幼虫から離れて飼育ケース内を歩きまわる個体もいた. 幼虫孵化後も雌成虫は餌であるトビムシを活発に捕食した. 飼育ケース内に餌であるトビムシを放つと雌成虫は捕らえようとトビムシの動きを追うが、その際に幼虫の動きに反応した雌成虫が触肢を幼虫に向ける事が多々あったが、すぐに引っ込め襲ったり、共食いしたりすることはなかった. 飼育期間中に孵化した幼虫がトビムシを捕食しているのは観察されなかった.

まとめ

本稿では山口県西部から県内ではじめてイチョウヤドリカニムシの生息を確認したので、その分布や生

松田真紀子

息環境,生息状況について報告した. さらに、飼育観察により得られた簡単な生態的な知見も報告した. 海岸に生息するカニムシ類は4種が報告されているが (Morikawa, 1958),本種は海岸に生息していたことに加え、調査の過程で本種とは別に複数の既知種とは異なるカニムシ類を海岸のさまざまな環境下で確認した. 今後もこれら海岸のカニムシ類について可能な限り詳しく調べる予定である.

引用文献

萩原康夫・吉田 譲・島野智之(編著)(2019)「土の中の美しい生き物たち」161pp, 朝倉書店, 東京. 川野敬介・佐藤英文(2015)山口県のカニムシ類. ホシザキグリーン財団研究報告, 18: 251-272.

Morikawa, K. (1958) Maritime pseudoscorpions from Japan. *Memoirs of Ehime University, SECT. II(SCI.), SER. B(BIOL.)*, III, 1: 5-11.

Morikawa K. (1960) Systematic studies of Japanese Pseudoscorpions. *Memoirs of Ehime University, SECT. II(SCI.), SER. B(BIOL.)*, **4**(1): 85-172.

佐藤英文(1978) トゲヤドリカニムシの生活史について. ACTA ARACHNOL, 18(1): 31-37.